

第2回 福島県における復興祈念公園のあり方 (基本構想への県提言) 検討有識者会議

【第1回有識者会議における主な意見】

平成27年12月7日

福島県土木部まちづくり推進課

1.第1回有識者会議における主な意見

【市岡委員】

- ・公園区域外で震災遺構としての残置を検討している請戸小学校や海に見える景観など、復興祈念公園周辺を含めたランドデザインの検討が必要。帰還者からの受け止められ方を含めた検討が必要。
- ・住民の想いに答えながらの公園計画検討が重要であり、公園を活用した福島の情報発信ができればよい。長いスパンで震災前の営みや今後の防災方法等の情報発信が必要。

【鎌田委員】

- ・廃炉作業の中での放射能への安全性に対する不安解消。アクセス性向上のためのインフラ整備が必要。公園候補地周辺で失われた生活や文化等に係る意見の集約が必要。
- ・風化防止のためインパクトがあり感銘できる慰霊の場と同時に、震災に関する正確な情報発信の場とすることが必要。
- ・避難地域の住民帰還の象徴としてのメッセージ性、慰霊が形骸化しないようリニューアルしていくことが必要。常に誰かが集い、新しいものが得られるような、感謝の意が感じられるような公園としたい。

【長林委員】

- ・本公園は、「地域再生のまちづくりのモデル」「復興への強い意志」としての意味があり、「学びの場」「復興情報発信拠点」「住民が集える場」としての役割を考える必要がある。
- ・福島の災害は現在進行形なので、地域再生の「さきがけ」になる拠点の形成が大事である。現在進行形で新たな(復興の)情報発信ができる場にしっかりしていただきたい。

1.第1回有識者会議における主な意見

【涌井委員】

- ・公園整備の進捗プロセスが、住民帰還に繋がるような相乗効果を作っていく取組が重要であり、公園的な土地利用を住民と共に考えていく必要がある。
- ・人と社会と自然に関わる地域の資料を委員に示して欲しい。(地域の復興に関するデータ、広域的な視点から教育的ツアーなどを想定した場合の拠点、自然環境、再度災害への対応など)

【伊澤行政委員】

- ・諏訪神社から見える津波被災地区や請戸小学校、マリンハウスふたば等の震災遺構との連携、東京電力第一原発煙突の眺望景観の活用が考えられる。
- ・震災を風化させないための取組を復興祈念公園を含めて検討することが重要。公園候補地付近の放射線は現在も低い値である。現在、除染も実施中である。

【馬場行政委員】

- ・復興祈念公園周辺で起きた悲劇(津波被災発生、避難指示による被災者捜索困難)や奇跡(請戸小学校やマリンハウスふたばでの避難状況)を伝承すべき。
- ・アーカイブ施設と復興祈念公園との連携が必要。放射線対策を徹底し、教育的視察等へ対応し、後世に伝えていく公園にしていきたい。

1.第1回有識者会議における主な意見

【大河原行政委員】

- ・公園整備と避難指示区域復興の重ね合わせが意味を持つ。福島が復興する姿の情報発信が必要。津波被災地区を見渡せる最低限の地形改変とすべき。
- ・イノベーションコースト構想の各拠点と公園の関係についての整理が必要。公園の検討と併せ、公園周辺の県道や河川の復旧方法の検討が必要。

【山川会長】

- ・追悼・鎮魂の対象や人間と自然との関係の中で祈念公園をどのように検討していくのかの整理が必要。アーカイブ拠点と一体的な検討が必要。
- ・復興プロセスの情報発信及び行政と住民との役割分担の整理が必要。復興祈念公園の来園者のリピーターを確保するためのデータを蓄え、情報発信していくアーカイブ拠点との連携が必要。県の復興計画の3つの理念を実現していくことが重要。